

1. 目的

世界に先駆けて超高齢社会を経験し、その健康課題に先進的に取り組んできた島根県においては、超高齢社会における健康課題の解明とその看護に焦点を当てた研究による看護方法の開発や知の構築を行っていく必要がある。

今後、さらに複雑さを増すことが予測される超高齢・長寿社会における健康問題に適切に対応して、人々の健康生活を支えるためには、これまで提唱されてきた加齢の諸理論や、培ってきた高齢看護学の知識・方法等をさらに発展させて、新たな知識と方法の集積による理論の体系化、すなわち「超高齢看護学」を構築することが急務である。

看護学専攻博士後期課程は、超高齢看護学の理論体系化に資する水準の独創的な看護学研究を自立して実施し、超高齢看護学の発展に寄与することを目的とする。

2. 目標

「超高齢看護学」を構築するための高水準で独創的な看護学研究を自立して実施し、看護の質向上に貢献することによって、人々が豊かな人生を享受できる超高齢社会の実現に寄与することのできる教育研究者を養成する。

3. ディプロマ・ポリシー

3年以上在学し、所定の単位を取得し、かつ、研究指導を受けて博士論文を提出し、その審査に合格することにより、博士（看護学）の学位を授与する。そのために、以下の学修成果を求める。

1. 国内外の文献分析や保健・医療機関等でのフィールドワークを通して、超高齢看護学の構築に必要な研究課題を設定できる。
2. フィールドのケア対象者や実践者、異分野の研究者等と連携・協働して超高齢看護学の理論体系化に有用な研究を自ら企画・立案・遂行できる研究能力が培われている。
3. 学術的意義、新規性、創造性、応用的価値のある超高齢看護学に関する博士論文が作成できている。
4. 博士論文の研究成果を国内外で発表するために必要なプレゼンテーション力、英語力が身についている。
5. 大学等の教育研究機関及び保健・医療の現場で、看護学の教育・研究をリードしていくキャリアビジョンを明確に描けている。

4. カリキュラム・ポリシー

「超高齢看護学」を理論体系化するための高水準で独創的な研究を自立して行う能力を効果的に培うため、以下のカリキュラム（16単位）を設定する。

1. 「超高齢看護学」を構成する専門科目として、看護ケア方法や看護実践モデルの開発、看護理論の生成など超高齢看護開発に関わる『超高齢看護開発特講』と、看護の成果を効果的に提供するためのシステム開発に関わる『安全ケアシステム開発特講』の2科目4単位を1年次前期に設ける。国内外の看護学および看護学に関連する領域の理論、文献、報告書、資料等を網羅的に分析し、「超高齢看護学」の創生に繋がる可能性のある研究課題や理論構築の必要性を示す根拠の発見に努める。「超高齢看護学」の構築を展望するために、両科目の最終回は合同セッションとする。
2. 「超高齢看護学」の研究を学際的に遂行するための視点と方法論を学ぶための『研究方法特講』2単位を1年次前期に設ける。
3. 『超高齢看護開発特講』、『安全ケアシステム開発特講』、『研究方法特講』と併行して、1年次の通年科目である『超高齢看護学研究演習』2単位を設ける。本科目では、フィールドワークを通して研究課題を模索する。「超高齢看護学」は新たに構築する分野であることから、自己の研究的関心に即した現地において、その対象や現象を直接観察し、関係者への調査を行い、現地での資料を収集することなどによって、そのコミュニティの特性に応じた、顕在的及び潜在的な健康課題や、今後起こり得る健康課題を予測し、研究すべき課題を浮き彫りにする。
4. 異分野融合研究を積極的に進め、ケア開発を戦略的に推進できる学際的リサーチマインドを身に付けることを目的として、本学医学系研究科医科学専攻博士課程で開講されている科目のうちから、看護学との連携と融合が期待できる以下の13科目を関連科目として設定し、その内から1科目2単位以上を履修する。
『総合診療学Ⅰ』『総合診療学Ⅱ』『地域医療学Ⅰ』『地域医療学Ⅱ』『医学・医療情報学Ⅰ』『臨床医学と社会・環境医学への高度情報学の応用』『地域がん治療学』『がん医療社会学』『緩和ケア学』『環境医学Ⅰ』『環境医学Ⅱ』『知的財産と社会連携』『機能性物質・食品の医療応用と環境影響』
5. 博士論文作成に係る『超高齢看護学特別研究』6単位を設け、学生の研究テーマと履修計画に応じて、入学時から修了まで、主研究指導教員・副研究指導教員・研究指導補助教員の3名による重層指導体制により、「超高齢看護学」としての学術的意義、新規性、創造性、応用的価値を有する博士論文を作成できるよう個別に研究指導を行う。

5. 履修方法

専門科目として、「超高齢看護開発特講」と「安全ケアシステム開発特講」の2科目4単位に加えて、「研究方法特講」2単位、「超高齢看護学研究演習」2単位、「超高齢看護学特別研究」6単位、関連科目から1科目2単位以上の合計16単位以上を履修する。